

2017年7月10日

報道関係各位

公益財団法人 国際高等研究所

## 国際高等研究所「けいはんな“エジソンの会”」 第12回（2017年度第4回）会合の開催について

公益財団法人国際高等研究所（木津川市、理事長 立石義雄、所長 長尾真）は、けいはんな学研都市が標榜する「立地機関間の連携とそれによる成果の創出」を促進するための立地機関によるコミュニティの形成と、この街ならではの基幹技術・基幹産業の確立を目指して、「けいはんな“エジソンの会”」を開催しています。

具体的な「オープンイノベーション」の成功事例を造り込むだけでなく、けいはんな学研都市のコアとなる科学技術ドメインを確立することで、世界をリードするサイエンスシティを目指しています。この度、第12回会合を下記の通り開催いたします。

### 【開催概要】

◆日 時 7月24日（月）13：30～17：50

◆場 所 国際高等研究所レクチャーホール（木津川市木津川台9丁目3番地）

◆参加者 けいはんな学研都市の立地機関を中心に50名程度

### ◆プログラム

13：30-13：50 「自動走行プロジェクトの位置付け ～科学技術イノベーション政策の視点から～」

有本建男 国際高等研究所副所長、政策研究大学院大学 教授

13：50-15：00 「SIP 自動走行システムの取り組み」（仮題）

葛巻清吾 内閣府 SIP 自動走行システム プログラムディレクター

トヨタ自動車株式会社 先進技術開発カンパニー 常務理事

15：05-16：15 「自動走行システムの基盤技術とダイナミックマップの構築」（仮題）

上條俊介 東京大学 生産技術研究所 准教授

16：20-17：30 インタラクティブ・セッション（70分）

17：30-17：50 「理研におけるイノベーション促進方策について」

古屋輝夫 理化学研究所 理事長室長

この機会に是非ご取材いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

### 報道関係者の参加申し込みについて

別紙返信用FAX用紙もしくはメールにて、7月21日（金）までにご連絡をお願いします。

（本件に関する問い合わせ先）

公益財団法人国際高等研究所 広報課 森口 有加里

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地

TEL：0774-73-4000 FAX 0774-73-4005 携帯：090-4288-4001

E-mail：kouhou@ias.or.jp

ホームページ：http://www.ias.or.jp/

## ○「けいはんな“エジソンの会”」の目指すところ

けいはんな学研都市が標榜する「立地機関間の連携とそれによる成果の創出」を促進するため、高等研が知的ハブとしての役割を果たすとともに、立地機関の研究者や技術者のコミュニティを形成し、具体的な「オープンイノベーション」の成功事例の確立に寄与することを目指しています。

取組みの核となる科学技術シーズの領域を人工知能～AI とし、2017 年度からは、AI について具体的な出口を見据えた研究開発を実践するために必要な内容を掘り下げて提案していくことに主眼を置き、研究機関や企業に属する様々な立場にある方々が、自ら AI を中心としたテクノロジーを活用し、具体的な製品、サービスを生み出すことができるようになるためのテーマ設定をしていきます。

具体的には AI とそれを取り巻く技術の最新動向を掘り下げて解説する「テクノロジー」編と、様々な分野における AI を駆使した最先端のソリューションや AI の活用に係る課題を扱う「システム・社会」編から、テーマを厳選してお届けします。AI を中心とした新たなテクノロジーがどのように活かされ、どのように新たなエコシステムが切り拓かれるのか、様々な分野の研究者や企業の皆様にも大いに参考にさせていただけるものと期待しています。

## ○第 12 回会合の概要

ネットワークとセンシング技術の進展に伴い、自動車はネットワーク端末化し、コネクテッドカーへと進化しています。外界や障害物を認識するためのセンサやレーダーに加えて AI を駆使することで車両を自律走行させるだけでなく、インフォテイメント、テレマティクス保険、無人搬送サービスなどを含む一連のエコシステムが構築されようとしています。

第 12 回会合では、「自動走行プロジェクト」が、内閣府の産学官連携の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）として進められている背景とその取り組みを、科学技術イノベーション政策の視点から、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）で当該テーマに参画の当研究所副所長、政策研究大学院大学教授の有本先生に説明いただきます。

トヨタ自動車株式会社の葛巻氏からは、SIP プログラムディレクターの立場から日本の自動走行システムの検討状況について、日本発で推進される次世代都市交通システムの全体像と実用化に向けての共通課題、国際連携の方向性等、日本における産学官連携による取り組みの全体像についてお話をいただくとともに、トヨタ自動車の考える自動運転システムについて、そのコンセプトの説明とともに、それを支える技術や AI の活用など、その最新の取り組みを紹介いただきます。

また、東京大学 生産技術研究所の上條先生からは、自動走行システムに必要な構成要素である「認知」、「判断」、「操作」、「人との協調」を実現するセンサ・レーダー等のセンシング技術、「セキュリティ」、「シミュレーション」、「データベース」などの基盤技術の最新動向とともに、自動走行を支える高度な「自己位置推定」「周辺環境認知」のためのダイナミックマップの構築についても、技術的な観点から掘り下げた解説をしていただきます。

さらに、理化学研究所の古屋氏からは、企業と理研の連携によるイノベーション促進のための新たな方策についてご紹介いただきます。これまで以上に民間企業のニーズにマッチした柔軟かつ密接な協業体制と支援活動により、理研の創出するシーズを、機動性をもって事業化・商品化に繋げていただくことを目指します。

## ○「けいはんな“エジソンの会”」の企画・運営を行う「企画運営委員会」（順不同、16 機関）

- ・ 研究機関：理化学研究所、産業技術総合研究所、情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所、量子科学技術研究開発機構、国際高等研究所
- ・ 教育機関：奈良先端科学技術大学院大学、滋賀大学、京都情報大学院大学
- ・ 企業：西日本電信電話株式会社、サントリーホールディングス株式会社、パナソニック株式会社、株式会社島津製作所、京セラ株式会社、オムロン株式会社、株式会社国際電気通信基礎技術研究所、日本電産株式会社

## ○オブザーバー（順不同、9 機関）

- ・ 京都府、奈良県、木津川市、精華町、奈良市、国立国会図書館、関西文化学術研究都市推進機構、関西経済連合会、京都産業 21